
—詩— 廻る季節に...

百合茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

―詩― 廻る季節に…

【Nコード】

N0744B

【作者名】

百合茶

【あらすじ】

詩デス。ちよつとそんな気分になり書いてみました。

— 詩 —

廻る季節に…
路の果てに…

不意に頬を撫でる
冷たさに気付いたら
もうそこに
あなたはいなくて
雪が足跡を消していた

冬木枯れ
寒さ舞い散る頃は
一番近くに感じたよ
凍える指先
包んでくれて
特別暖かったの

そこで交した約束
私は今も

握り締めてるけど
まるであなたは
煙のように
指の間から
消えていった…

頬を撫でた北風に
マフラー巻き直すけど
風は確かに
心の隙間すり抜けた

知らなかったよ
冬の訪れを
気付けなかったよ
季節の変化に
忘れていたよ
冬の冷たさを

どこを探しても
あなたはいない
真っ白な世界がただ…

あなたの面影
欠片、暖かさまで
消してゆく

知らなかったよ
この路の果て
気付かなかったよ
あなたの変化
忘れていたの
独りの寂しさ…

3階のベランダからすっかり日の落ちた6時半の空を見てみると、冬の始めの匂いがした。ツーンと胸に染みる、最近までとは違う空気が。去年の今頃は何をしていただろう。振り返っても全然変わっていないけれど、少なくとも今よりずっと無知だった。何も知らないあの頃が、実はとても満たされてた。思い出せば胸に染みる。北風が、どこかに空いた穴の中をすり抜けた気がした。秋の空はなぜだろう。もの悲しくさせる。星一つ見つけきれない雲り空の下、この場から離れる事ができなかった。

（後書き）

最後までありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0744b/>

—詩— 廻る季節に...

2010年10月9日02時25分発行